

平成24年度 鳥取県立高等学校  
入学者選抜学力検査問題

国 語

( 第1時限 9:20~10:10 50分間 )

注 意

- 1 「始め」の合図があるまで、開いてはいけません。
- 2 問題は全部で5題あり、10ページまでです。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 5 問題を読むとき、声を出してはいけません。
- 6 「やめ」の合図で鉛筆を置きなさい。

【問題一】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①、②の□には同音の漢字がそれぞれ一字ずつ入ります。それぞれ適切な漢字を考えて楷書かいしよで書きなさい。

- ① 布を□色する。      ② 選手□誓

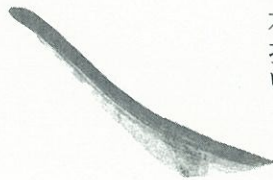
問二 小説『ころろ』、『三四郎』の作者で近代の口語体小説を世に広める先駆けとなった小説家と同時代に活躍した小説家を、次のア～エから一人選び、記号で答えなさい。

- ア 三島由紀夫    イ 川端康成    ウ 太宰治    エ 森鷗外

問三 次の文は、毛筆における楷書の基本的な筆使いについて説明したものです。後のア～エのどれを説明したものが、一つ選び記号で答えなさい。

筆を下ろしてから少し右下に引き、左上に押し上げるようにして筆を上げる。

- ア 点      イ 右払い      ウ 左払い      エ 反り



問四

中田君は、国語の授業でインタビューについて学習しました。その後、応援しているプロサッカーチームのホームページを見て、実際のインタビューがどのように行われているのか調べました。次の①～④は、優勝を決めたこのチームのキャプテンに対する、記者からの質問事項を順に並べたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

- ①—まずは、優勝について率直な気持ちを教えてください。  
②—これだけ早く優勝が決まったことに対してはどのように評価していますか？  
③—  
④—試合前日はどんな気持ちでしたか？

⑤ 今季、プレーのなかで意識していたことは？

⑥ 実際に監督から求められていたものは何でしたか？

⑦  監督を一文字で表すとしたら？

⑧  この街についてはいかがでしょう？

⑨

(1) ③、⑦、⑨のそれぞれの空欄に当てはまる質問事項として、最も適当なものを、次のア～ウから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 監督の印象を教えてくださいませんか？

イ サポーターの印象について教えてください。

ウ 優勝を意識しはじめたのはいつぐらいからだったのでしょうか？

(2) ④の質問に対して、ホームページには、この選手は次のように答えたとき書いてありました。

妻が病気の時に励ましてくれた言葉を思い出してがんばろうと思いました。

中田君は、この書きき方では「選手本人が病気だった」ということがわかりにくいので、書き直した方がよいと思いました。どのように書き直したらよいですか。文頭を「私が」として、全文を書き直しなさい。

(3) ⑧の質問に対して、この選手は次のように答えています。空欄  に入る四字熟語として、最も適当なものを、後のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

〔選手の答え〕

「静」ですね。怒るときに「ちゃんとやれよっー」みたいな言い方をされたいんですよ。「さっきのゲームどう思う？」のよ  
うな、そんな怒り方をされるので。  しないというか。

ア 一喜一憂    イ 朝三暮四    ウ 七転八倒    エ 海千山千

(4) (3)の〔選手の答え〕の説明として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 監督の言葉や行動を感情的に説明している。    イ 質問に対する答えが的を射たものではない。

ウ 謙譲語を用いて監督への敬意を表している。    エ 結論を最初に言ってから理由を述べている。

【問題一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「がんばる」こと、「努力」すること。日本の子どもたちは、昔も今もそれを期待され続けてきた。その意味で社会は何ら変化していないかにも見える。 **i** 実は、子どもたちにとっての「がんばる」ことの内実は、人々に気づかれないうちに変貌を遂げてきているのではないだろうか。少し前までは、「がんばる」子どもといえは黙々と孤独に、主に机に向かって刻苦勉強する子どもがイメージされることが多かっただろう。それは単に孤独だけでなく、他者との競い合いをも含意していた。それは個人が周囲の環境から切り離された状態で、自分自身の向上だけを目的として「努力」という点で、いわば「閉じた努力」の時代であったといえる。子どもたちの間でそうした側面が後退したことから、子どもの「がんばり」や「努力」が薄れてきたとみる見方もある。たとえばNHK放送文化研究所が実施した意識調査によれば、**a** 「生き方を良いと思う中学生の比率は、一九八二年の六三%から一九八七年五六%、一九九二年五二%、二〇〇二年四四%と一貫して減少し続けている（NHK放送文化研究所編『中学生・高校生の生活と意識調査——楽しい今と不確かな未来』NHK出版、二〇〇三年、四七頁）。

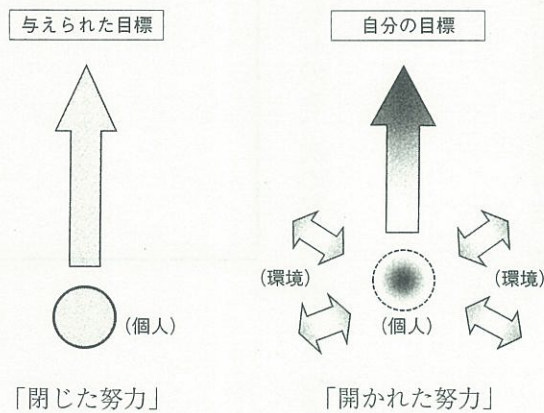
だが、だからといって子どもたちの中で「がんばり」や「努力」が希薄化していると考えらるならば、それは子どもにとつての「がんばり」の中身そのものが変化しつつある可能性を見落とす結果になるおそれがある。今、「がんばり」の内実は従来の「閉じた努力」から、新しい「開かれた努力」へと変質しつつあると考えられるのだ。「閉じた努力」が、受験勉強を典型とするような、与えられた目標に向かって反復練習などを通じて自分自身の単線的な向上を遂げることを意味していたのに対し、ここでいう「開かれた努力」とは、その時々周囲の状況に応じて自分の方や目標を自ら選び取り、それに向かって最大限の力をつくすような行動特性を意味している。それは必ずしも他者を敵対視した上での競争を意味せず、むしろ多くの他者からなる環境

の中での自分の位置づけを調整・模索しながら貫くような態度として表れる。

そしてこうした「開かれた努力」は、実は「閉じた努力」よりもはるかに難しく高度な「努力」であるといえる。「閉じた努力」はいわば機械的・自動的な努力であり、自分の周囲の環境への敏感な感受性やその中で自分自身のあり方を決めてゆく決断を必要としないが、「開かれた努力」は常に環境への鋭敏な感受性と「自分自身への反省的な自己規定を必要とする」「閉じた努力」と「開かれた努力」の違いをイメージ的に表現するならば、**1** のようになるだろう。

このような「閉じた努力」から「開かれた努力」への変化が生じているとすれば、それは同時に、「努力」そのものが「行動としての努力」から「能力（あるいは資質）としての努力」へと変化しつつあることを意味している。すなわち、先に述べたような「開かれた努力」は **b** 「どれだけの時間「がんばる」か、何回繰り返して練習するか——ではなく、個人

図 「閉じた努力」と「開かれた努力」の違い



の生きる態度、姿勢のあり方としてしか表れようがないからだ。そして「努力」が「能力」の一部となつたとき、それは必然的に、**2** 万人が等しく手にしうるものではなく、偏った「ブ

「閉じた努力」  
与えられた目標  
（個人）

「開かれた努力」  
自分の目標  
（個人）  
（環境）

と考えられる。何らかの条件に恵まれて「開かれた努力」を行うことができる者と、そうでない者とは数直線上に並ぶことになる予測されるのだ。

そのような事態を<sup>②</sup>ソウテイしたとき、私たちには次のような問いがつきつけられることになる。個々の子どもたちを取り巻くどのような条件が、そうした「能力」としての「努力」の水準を決定しているのか。<sup>ii</sup>子どもたちに「開かれた努力」を期待するのであれば、いかなる環境条件を子どもたちに対して整備することが有効であり必要なのか。子どもたちに対して

単に「がんばれ！」という圧力をかけるだけでは、「能力」としての「開かれた努力」は形成されないだろう。それゆえ、「開かれた努力」がどのように形成されているのかについて、冷静で客観的な検討を加える必要がある。

(本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』)

問一 <sup>①</sup>ブンブ <sup>②</sup>ソウテイ について、それぞれカタカナを漢字に直して、楷書で書きなさい。

問二 空欄 、 に入る言葉の組み合わせとして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |      |    |      |   |   |     |    |     |
|---|---|------|----|------|---|---|-----|----|-----|
| ア | i | だが   | ii | もはや  | イ | i | しかし | ii | もし  |
| ウ | i | それとも | ii | しよせん | エ | i | だから | ii | まさか |

問三 空欄  に入る最も適当な言葉を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |                |   |                |
|---|----------------|---|----------------|
| ア | 他人や世の中のためにがんばる | イ | 自分の得意分野にのみ努力する |
| ウ | 他人に負けないようにがんばる | エ | 周囲の大人に言われて努力する |

問四 <sup>1</sup> 自分自身への反省的な自己規定 とは、どのようにすることですか。文中の語句を用いて、四十字以内で説明しなさい。

問五 次の文は、 における (個人) について説明したものです。空欄 、 に当てはまる内容を、文中からそれぞれ十五字以内で抜き出して答えなさい。

「閉じた努力」の (個人) は、	<input type="text" value="A"/>
「開かれた努力」の (個人) は、	<input type="text" value="B"/>

にある個人を表しており、  
にいる個人を表している。

問六 空欄 b に入る最も適当な言葉を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ユニークな発想の源    イ 計量不能な能力の質    ウ 半強制的な伝統の力    エ 計測可能な行動の量

問七 本文におけるⅠ「閉じた努力」、Ⅱ「開かれた努力」の具体例の組み合わせとして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア Ⅰ 朝の会の後、クラス全員が一斉に五分間の四則計算ドリルを行う。  
Ⅱ クラスでグループを作って、協力して理科の自由研究に取り組む。

- イ Ⅰ 海外で仕事をするため、英検一級取得に向けて英会話教室に通う。  
Ⅱ レギュラーの地位を獲得するために、下校後でも練習を怠らない。

- ウ Ⅰ 「まちおこし」を課題研究のテーマに設定し、現地で調査を行う。  
Ⅱ 志望校に合格するために、毎日四時間以上机に向かって勉強する。

- エ Ⅰ 地球温暖化への影響を考慮し、自家用車をやめて電車で通勤する。  
Ⅱ 近所の人たちと地域の美化に取り組み、定期的に清掃活動を行う。

問八 万人が等しく手にしうるものではなく<sup>2</sup> とありますが、筆者は何の違いによってそのようなものかと考えていますか。文中から四字で抜き出して答えなさい。

問九 本文の論の進め方や内容を説明したものととして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 二つの「努力」の相違について具体例を多用して説明することで、従来の努力から新しい努力への移行を促している。  
イ 二つの「努力」の是非について経験的に説明することで、読者が新しい努力の長所を受け入れられるようにしている。  
ウ 「努力」の変質を統計や図を用いて対比的に説明した上で、新しい努力を可能とする条件について吟味を訴えている。  
エ 「努力」の変化を時間の経過に沿って繰り返し説明した上で、従来の努力を時代にあわないものとして批判している。

【問題 二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【この場面までのあらすじ】小桃（本名 時子）は、母親から、父親の名は亀之助で、小桃が小さいころに病死したと教えられていた。ところがつい最近思わぬことから、自分の実の父親は小野松蔵という名で、今でも生きているということを知る。「一度だけでも顔が見たい、連絡をとってほしい」と母親に頼み込み、街の喫茶店で短時間会う約束をとりつけた。

1 母親は曖昧な思い出話をするばかりで、初めて落ち合う相手の特徴をいっこうに教えてくれなかった。確実なのは、相手が八十過ぎの老人で、中肉中背で、以前から街へ出るときは灰色のソフト帽で髪の毛の薄い頭を隠すのがならわしだったということだけである。小桃は、せめてそのソフト帽を目印にすることに、約束の時間より早目に着くように家を出た。

A 繁華街の角にある広い\*フルーツ・パーラーで、①日和のせいか、ウィークデーの午後だというのに店内は予想以上に立て込んでいた。ほとんどが女の客だったが、なかに二人だけ男の老人が混じって、一人は連れ合いらしい老婦人と並んでアイスクリームを舐めていた。もう一人は近在から出てきた人らしく、手編みの厚ぼったいジャケツの上に早くもチョッキを重ね着した態で、時々虫眼鏡を用いながらのんびり新聞を読んでいる。

小桃は運よく入口の近くに空席を見つけて、そこから一枚ガラスのドアを押して入ってくる人々を注視していた。いまはもはや灰色ではないかもしれぬが、ともかくもソフト帽をちよいと斜めに傾けて、首には渋い水玉模様なんぞの\*アスコット・タイを形よく巻いた\*瀟洒な老人だったら、どうだろう。小桃は、珍しく胸がときめいてきた。

——不意に、うしろから肩を軽く叩く者がいた。小桃は振り返った。思いがけないことに、奥で新聞を読んでいたジャケツの老人がいつの間にか背後に立って、眩しそうに目をしばたたきながらもつと思いがけないことを口にした。

「お前さん。時子だえ？ その袖を着ているところはおふくろの若いころにそっくりだ。ま、あつちのテーブルさ来いちゃ。」

小桃はちよつとの間、<sup>2</sup>呆気にとられて老人の赤い鼻を見詰めていた。それから、弾かれたように椅子から立ち上って奥へ引き返す老人に従った。自分は確かに時子であり、自分を時子と呼ぶ老人は自分の父親しかいないのである。

「せば……」と小桃は、奥のテーブルに向い合ってから老人の日焼けした皺深い顔から目を離せずに行った。「あんたさんは、小野松蔵さんで？」

「んだ。」と老人は頷いた。

「おいたあ」と小桃は驚き呆れる小声を洩らした。「ほんに、松蔵さんで？」

「んだ。ほんにせ。」

老人は人の好きそうな笑いを顔いっぱい浮かべ、小桃も釣られて笑顔になった。畳んだ新聞の上に、形が崩れてリボンも色褪せた褐色のソフト帽がのっている。小桃は、父親が気取った老紳士でなくて、かえってほっとしていた。

「お前は、なんにする？」

ウエイトレスに手を上げて父親がいった。

「父ちゃんは？」

小桃は思わずそういって、うろたえた。いい齢をして、<sup>3</sup>忽ち涙ぐんだからである。

「我だらクリーム・ソーダせ。」

「んだら、おらもクリーム・ソーダ。」

と、<sup>3</sup>四十女が椅子に軀を弾ませていった。

二人は緑色の甘いソーダ水をストローで飲んだ。父親が物柔らかな<sup>②</sup>口調でいった。

「怨みでもあらば、なんでも喋れや。」

小桃は急いでかぶりを振った。なにも怨みを訴えにきたのではない。けれども、それ以外の言葉もなにつく口から出てこなかった。二人はただ、どちらも無言のままたつぷり時間をかけて一杯のクリーム・ソーダを飲んだだけであった。

別れるとき、父親はテーブルの下から、握りが太くて先細りになっている、ねじれたステッキのようなものを取り出した。全体が油紙に包まれていて、麻紐で螺旋状にしばってある。

「これはな、じねんじょだけんど。」

と父親はいった。

「じねんじょ？」

「山の芋よ。今朝、おらが早起きして、自分で山から掘ってきた。これを土産に持って帰ってけれ。お前のおふくろはこのじねんじょが好物でな。精がつくから、これで売れっこのころを凌い

問一 ① 日和

② 口調

① ② について、それぞれ読み方をひらがなで書きなさい。

問二 1 母親は曖昧な思ひ出話をするばかりで とありますが、ここで用いられている「ばかり」と同じ意味の「ばかり」を含むものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今にも泣かんばかりの顔だった。 イ 見えるものといえは波ばかりだ。  
ウ あれから三年ばかりが経過した。 エ 鳥取にはさつき着いたばかりだ。

問三 原文では、空欄 A に、小桃が早目に家を出た理由が書かれています。小桃が早目に家を出た理由を、「ソフト帽」という語を用いて、一文で説明しなさい。

だものよ。ま、二人で麦とろにでもして食ってけれ。」

フルーツ・パーラーを出ると、二人は潔く右と左に別れたが、まだ何歩も歩かぬうちに、小桃は父親に呼び止められた。

「そう B みたいに持って歩いて歩いちゃ、なんね。じねんじょの命は根っこの先にあつてな。途中で折らずに、根っこの先までそっくり掘り出すのが礼儀なのせ。 B みたいに持ち歩いたら、いつかはうっかり根っこの先を傷つける。横抱きにしてやってけれ。」

父親は笑ってそういうと、形の崩れたソフト帽を驚掴みにして、頭からちよつと持ち上げた。

(※注)

フルーツ・パーラー：果物店を兼ねた喫茶店

アスコット・タイ：ネクタイの一種

潇洒：あか抜けして、しゃれているさま

(三浦哲郎『じねんじょ』)

問四

2 呆氣にとられて

とありますが、小桃はどのようなことに対して呆氣にとられたのですか。三十字前後で説明しなさい。



問五 3 四十女が椅子に軀を弾ませていった。とありますが、この時の小桃の様子を説明したものととして、考えられるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 父親を前にして、父親と同じように物柔らかな口調で注文するほど、穏やかな心持ちになっている様子。
- イ 四十歳近い年齢にもかかわらず、期待通りでなかった父親に幻滅して、いらだちを隠せないでいる様子。
- ウ 父親の前で急に涙ぐんでしまったことに動揺して、年がいもなく、落ち着くことができないう様子。
- エ 年齢にふさわしい飲み物を注文し、大人になったことを父親に示すことができ、よろこんでいる様子。

問六 4 二人はただ、どちらも無言のままたつぷり時間をかけて一杯のクリーム・ソーダを飲んだだけであった。とありますが、この時の様子の説明として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 父親に不満を言いたい娘と娘の言葉を恐れている父親とが、気まずい雰囲気の中で向き合い、相手の次の言葉を待っている様子。
- イ 念願の父親との対面に娘は舞いあがってしまいが、いつのまにか時間が経過して、とうとう最後まで緊張がとけないでいる様子。
- ウ 感極まって思わず涙ぐんでしまった娘を目の前にして、父親はどう対処してよいか分からず、知らんぷりを決め込んでいる様子。
- エ 互いに何から話してよいかわからないまま、限られた時間の中で、親子水入らずのひとときを名残惜しそうに過ごしている様子。

問七 空欄 B には同じ語が入ります。その語を文中から四字で抜き出して答えなさい。

問八 「松蔵」の持参した「じねんじょ」に関する説明として、**適当でないもの**を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 潔く別れたあとも松蔵が小桃の後ろ姿を見まもり、最後の言葉をかけるきつかけになっている。
- イ じねんじょの素朴な印象が郷愁を誘って、昔小桃が松蔵とともに暮らしたころを思い出させる。
- ウ 母娘のために早朝から出かけ、ひと苦労してじねんじょを掘った松蔵の思いやりを表している。
- エ 松蔵と母親が別れてから長い歳月が経ってはいるが、仲むつまじかった当時を思い起こさせる。

問九 本文について説明したものととして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 松蔵が自分の父親であるという確信を小桃が抱いたことに対応して、松蔵を指し示す言葉が変化している。
- イ 登場人物の服装や容姿の詳細な描写によって、それぞれの性格や暮らしぶりが鮮明に浮かび上がっている。
- ウ 互いの相手に対する抑えきれない好奇心に合わせ、二人の会話がテンポの良い質問形式で進められている。
- エ 常体を使用したり短文を用いたりすることで、淡々とした対面の中にも深い情愛のあることを表している。

【問題四】 次の文章は、一代で財を成した商人、藤谷市兵衛（藤市）について書かれたもので、藤市が近所の若者に金持ちになる方法を語って聞かせる場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

三人の客座に着く時、台所に摺鉢の音ひびきわたれば、客耳をよるこばせ、これを推して、「皮鯨の吸物」といへ

ば、「いやいやはじめてなれば雑煮なるべし」といふ。又ひとりよく考へて、「煮麵」とおちつきける。必ずいふ事に

正月なので

結論を下した

こういう時にはきまつて

してをかし。藤市出でて、三人に世渡りの大事を物語りして聞かせける。一人申せしは、「今日の七草といふ謂れは

言うものでおもしろい

秘けつ

1

いはい

いかなる事ぞ」と尋ねける。「あれは神代の始末はじめ、増水と云ふ事を知らせ給ふ」。又一人、「掛鯛を六月まで荒神

儉約の始まりで

くわうじん

の前に置きけるは」と尋ぬ。「あれは、朝夕に肴を食はずに、これを見て食うた心せよと云ふ事なり」。又、太箸を

とる由来を問ひける。「あれは、穢れし時白けて、一膳にて一年中あるやうに、これも神代の二柱を表すなり。よ

削って白くして

※

ふたはしら

くよく万事に気を付け給へ。さて、宵から今まで各々咄し給へば、もはや夜食の出づべき所なり。出さぬが長者になる

心なり。最前の摺鉢の音は、大福帳の上紙に引く糊を摺らしたといはれし。

先ほどの

表紙

『日本永代蔵』より

(※注) 七草：七草がゆ。万病よけになるとされた。

掛鯛：正月にかまどの上にかけておく二尾の鯛。六月一日に食べる

と病気をまぬがれるとされた。太箸：雑煮を食べる時に折れることを嫌って、太く作った白木の箸。

神代の二

柱：伊邪那岐（いざなぎ）・伊邪那美（いざなみ）の二神。

大福帳：売買を記録した元帳。

問一 あるやうに を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

問二 増水 とありますが、これは「増水」と「雑炊」の二つの意を表しています。このような表現技法を何といいますか。最

も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 枕詞    イ 対句    ウ 掛詞    エ 反復

問三 置きけるは とありますが、この後に省略されている言葉を、文中から六字で抜き出して答えなさい。

問四 あれは<sup>3</sup> とありますが、この時の藤市の言葉はどこまでですか。終わりの三字を抜き出して答えなさい。ただし、句読点を含まないこと。

問五 客耳をよろこばせ とありますが、客はなぜよろこんだのですか。十五字以内で説明しなさい。

問六 「藤市」は、どのような人物として描かれていますか。最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 財産を築く方法を教わりにきた若者の質問をのりくらしとかわして、けむに巻いてしまふ、つかみどころのない人物。
- イ ただのけちではなく、正月の風習の由来と儉約の仕方とをこじつけるほど、徹底的にむだを省くことをむねとする人物。
- ウ 自分だけが裕福になろうとして、無知な若者に正月の風習の由来についてうそを教えて楽しんでいる、意地の悪い人物。
- エ 正月といえども世間知らずな若者への手ほどきを引き受けて、世の中の常識を懇切丁寧に教える、勤勉で物知りの人物。

【問題五】 近年海外で、日本の「マンガ」や「アニメ」など、いわゆる日本のサブカルチャーの人気が高まっています。こうした中、平成二十四年度には「国際マンガサミット鳥取大会」が開催されます。そこで、来県した外国の方々に、あなたが伝えたい日本の文化について、次の【条件】にしたがって、日本語で記述しなさい。

【条件】

- ① 「マンガ」や「アニメ」以外の文化を一つ挙げ、日本の文化をよく知らない外国の人に伝えるための文章とすること。
- ② 二段落構成とし、前段には伝えたい文化とその説明を記述し、後段にはその文化に対するあなたの感想や意見、または、伝えたい理由を記述すること。
- ③ 本文から書き始めること。
- ④ 解答欄の七行以上、八行以内でまとめること。
- ⑤ 原稿用紙の正しい使い方に従うこと。